

ハルピンデハ最初カラ自首ノ決心アリヌトタカなく  
達ガニーノトキツンデ其ノ終ニナツテ居リヌコトヲ

私ハ古加貝等ノ真意モ一應ハ法廷ニまツテ述ベネバ  
ナラヌ責任ガアルノヲ感シテ居リヌコトガ私ハ人テ迄ニ自  
命トシテ考ヘテ居テ未ダ発表シテ居ナクエトガアリヌレ  
タノデ出来ルコトヲ揮ル此ノ前ニ創ルル迄ヤツテ見様ト思ヒ  
コレヲ七日ニ初メカラ月末迄廿一日尙掛ツテハ國民若  
同伴皇道國家農村建設論ナルモノヲ認メタモノデシタ  
ンシテ大澤氏ノキヲ至テ七月二十日ハルピン憲兵隊へ  
自首シヌ様ナクテ抑座イヌス

オ  
其レデハ人テ一ツ聴キタラヌトハ滿洲デ自首コナイテ逃ケ  
テ居タ事情ハ今話シヌ様ガカ國デ墾墾金盡バケラ  
ハ自行サセテ被害ガ廣クシナカツタノハ  
其レハ一切後身ガ指揮ヲ採ツテ居ルカラニ人シテ扱

ヒ

揮一ニルゆ要ハ無し後持ハ絶対信頼シテ居ルニシテ  
シカズクシテ居タラズ一ニ揮一ニルノハ私デスカラシキ  
来ルガハ逃ゲ逃ビ梯ト思ヒコレテ逃ゲ得ル確信  
ヲ以テ逃ゲ延ビニシタ

オ 其レデハ是レガケノストハ認メテ置イテ尙遠ヒ無クカ  
ロウネ

ト之ヒツ、裁判長ハ豫算ヲ直書ヲ繕キ在ラ所ノ請  
五、一五、五、二、於テ陸海軍ノ等ト協力シテ一、二、三、四  
組トキ、分ケシテ首相官邸警視庁及友会本部一、日本  
銀行、四大臣官邸等ニ在ケル護衛隊ノ可守實ハ其ノ安  
定ニ結果ニ與ル護書ヲ護之陣カモ更ラニ爲ラシイ  
デ

オ 右ノ様ナリテ、實ノ大体ハ認メルネ一ト、報告ニ向ヒ  
質セバ、報告 橋本三郎一ハ

ヒ ハク急メス

オ 其レテハ女ハ現在ノ心境並民事ノ意義等ニ就クテ  
記ネタウカラヨウ考ヘテ置ク様ニ---

トテ裁判長ハ是レテ幸日ノ今判ヲ打切リ閉廷準備

ニ入ラウトニルヤ 龜山弁護人起ツテ前記ノ控廷内ノ公設

弁七首レ記録ノ如キ裁判長弁護人、被告ニ者尙ノ質

疑應答トナリ午後三時三十分閉廷トナリタルニ有之

右 及 申 (通) 報 候 也

特高秘第四八四二號

昭和八年十月十日

警視總監藤沼



內務大臣山本達雄殿  
各廳府縣長官殿



五、一五事件民間側關係者公判狀況

(第七報)

東京地方裁判所於十月十日標記第七回公判狀況  
左記通り

記

一日 十月十日 自午前九時七分  
一場 至午後三時三十六分



(1)

一 裁判長

今

一 係判檢一事

今

一 被告人

今

一 弁護人

(本日出席者)

石川池田岩松花井大塚

若井龜山柏木金石川井

宇都宮栗原山木前川深作

藤沼遠藤木村木下宮下

森田瀬口杉浦武鈴木

以上三名。鶴澤外三名。久席

一 傍聽人

特別傍聽人

三四人

一般

四六人

家族近親者

一七人



一、公判状況

八、開廷前ニ弁護士及新聞記者ハ入廷ス

九、正午前九時裁判長以下着席令五分被告全部、  
着席シ終リ稍々遅レテ各傍聴人ノ入廷シ許シタ

リ

三、全七分審理シ開始シ橋孝三郎ノ訊問ニ移リ現

在ノ心境ニ述ヘテ七日間ニ亘ル被告ノ陳述シ終了

シ柏木、花井、鈴木、石川各弁護士ノ補充訊問アリ

テ全十時十六分休憩ニ入ル

四、全十時三十分再開劈頭杉浦(武)弁護士ヨリ福岡

佐賀長崎各縣ヨリ約四千通ノ嘆願書ヲ送附シ

来リタル旨ニ述ハ賓ニ福岡市小學校五年生及箱

崎小學校高等一年生古田等及中學生三名ノ血判

書及ハンカチニ血判シタルモノニ三枚並婦人ノ髪

シ切リタルモノ等シ説明提出シタリ

公道子之愛郷塾参謀格被告後藤園彦ノ訊問シ開

始シ裁判長ハ橋ト今様上申書ノ順序ニ依リ訊問

シ進ムレハ被告又今様約一〇〇枚位ノ草稿シテ予ニ

シ「モウ少シ大キナ聲ニテト裁判長ノ注意シ受ケ

ツ、声シ潤シタサトテ低声ニテ陳述シ為シ今十一

時五十五分休憩ニ移ル

午後一時七分再開被告後藤ノ訊問シ續行今二

時十七分小憩今二時三十九分續開今被告ノ審理

シ續ケ尚ホ續行セムトシタルモ被告ハ「声ガ潤シ

タル上目シ述ハ為メ今三時三十六分閉廷シタリ

ク被告後藤ハ至極訥弁ニシテ然モ低声ナルカ審テ

小學校訓導當時欠食児童救済ノ為メ俸給全部シ

二年ニ且リ一送名ニテ投出シタル点ニ於テハ涙シ拭

キハ、陳述シ續ケタリ

○次回ハ十月十二日午前九時開廷ノ筈

才 前回一点墜落シタコトガアル夫レハ昭和七年四

月被告ガ林ト後藤シ連レテ古賀中村ニ面會シ

夕時其ノ際被告丈少シ遅レテ行ツタノダネ

才 橋 左様デス

其ノ際古賀カラ受取ツタト言ツテ林カラ五百圓

シ受取ツタネ、夫レハ大川カラ出タモノデ費用トシ

テ呉レタモノト思ツタネ

才 橋 左様デス

前回、陳述ニ付テ何ウ云ヒタイコトハナク

私ヲ滿洲カラ護送サレル途中新聞ニ見ルト橋ハ

塾生ノヤツタ後シ見届ケモセズニ滿洲ニ逃ケタト

報尊サレテアツタ之ニ付テ私ノ心事ニ申上タイ



今更自己并明ハ潔シトシナイカ塾生ノヤツタマト  
シ見届ケモヤズニ行ツタノハ逃ケタト云フ意味合  
ニトラレルトスレバ聞捨テニナラヌ天野屋利兵衛  
テハナイガ「橋孝三郎ハ日本人デ御座イ」ト云フ  
捨臺詞シ殘シタイ私ニハ「ベートーヴェン」ノナ  
タレシ聞ク耳モアレバ「ロダン」ノ藝術ノ愛好心シサ  
ヘ犠牲ニシテ斯ル舉ニ及ビ刑務所デ每晚南京  
虫ニ攻メラレテモ敢テ苦シミトセヌノハ何故カ私  
ノ御土ハ浄土其ノモノテス

親子兄弟睦マシク「ベートーヴェン」ノソナタレシ  
樂シク聞キ「ミレー」ノ藝術モ心行ク追味ハイ其他  
ノ文藝ヲモ享樂シ今頃ハ子供等シ連レテ茸狩  
テモシテ居ル之ガ人生ノ最上ダト思フ其ノ生  
活シ振リ捨テ、敢然起ツタ私シ諒羨願ヒタイ

滿洲之行ツタノモ逃ケタノナラハ私ハ自首ハシマセ  
ン官憲ニ追詰メラレタノデハナイ追ハレテ自首  
シタノデハ眞當ノ自首デハナイ

夫レデハ心事シ明カニスルコトハ出来ヌ官憲ノ  
手が無クナツテカラ自首スルノカ眞當ノ自首ダ  
ト思ツタ私ハ滿洲デ大活動シ仕様ト考ヘテ居  
ツタノデアール長春カラ「ハルビン」ニ行ク時モ屈強  
ノ青年ガ十數名馬賊ノ襲撃ニ備ヘルト云ツテ  
見送ツテ吳レタ興安嶺、蒙古等へ潜リ込シタノ  
デアール私ハ彼等ニ對シテハ事後兼諾ト云フコ  
トデ自首シタノデアール

オ 民本ト云フコトシ云ツタガ

石川 裁判長其ノ前ニ國家主權ニ對スル意見ヲ聞

下 亦ゴ士 以テ故シイ王跡ヲセムハ



橋

主權ノ民本性ニ付テ申上レバヨイト思フ

私ノ主權民本性ノ解釈ハ論議ノ必要ハナイト思フガ大學ヲ  
出夕秀オガ天皇ヲ否認スルモノノアルコトハ誠ニ重大デア  
ル一家ト云フ事ニ付テ考ヘルト親ガ子供ヲ本位トシテ居リ  
子供本位ナラザル親ハアルベキデナイト思フ親ガ子供ヲ生  
命トスルノガ真当デアル夫レト同シ様ニ天皇ノ大御心ハ親  
トシモ妻ラナイ民本ノ本體ハ天皇ヨリ他ニハナイト私  
ハ信ジテ居ル各國ノ神話ヤ国性ヲ解剖シテ申上ゲタイト思  
フガ今ハ其ノ用意モナク又半日ヤ一日デ片附クモノテハナ  
イ簡單ニ皇道トハ何ゾヤ云ハバ所謂天皇民本制ハ之ニ於テ  
明カダト思フ

神武天皇以來熊襲ノ征伐大化ノ革新明治大帝ノ御誓文  
教育勅語ヲ拝讀シテモ克ク分ル契約詭異ハ實ニ馬鹿氣  
タモノデアル民本ノ本體ハ畏クモ尊嚴窮ナキ皇室ニア

之ノ  
(一)

裁 橋

ルノデアアル

最後ニ被告ノ心境ハ

固ヲ重ネル事数回私ノ心願ヲ尽サシテ頂クコトハ實ニ有難

イ願クハ私ノ責任ヲ果セテ頂キタイ省ミマスレハ其ノ責任

ノアル処ヲ果シマシタ私ノ心境ハ喜ノ大ナルモノ之ニ過グ

ルモノハナイ又裁判長ノ特別ナル中厚意ニハ最高無上ノ感

謝ニ堪ヘナイ次第デアリマス又山ト積マレタ嘆願書ハ吾

々ノ至誠カ天ニ通ジタモノトシテ只々感謝ノ外ハアリマセ

ン私ヲシテ云ワシムルナラバ唯天ト云フ外ニ適切ナル言葉

ヲ知りマセン天ナルガ故ニ今回ノ如キコトヲ再ビ繰返サザ

ランコトヲ願フモノデアリマス之ヲ以テ日本ハ更生シ同胞

ノ愛国心ニ訴ヘザルヲ得ナイモノデアアル冷ヤカニ現状ヲ顧

ミマスルト獄中ニ於テスラ目下ノ日本ハ實ニ重大デアアル

フロンドン経済會議シノ如キ或ハフシムラシ會議ノ如キヲ

裁

見テモ充分窺ヒ知ルコトが出来ル、私ハ何ガ一番憂ヘザル  
ヲ得ナイカト云フト同胞ノ精神デアル建国ノ大精神ニ立還  
ルコトデアル私ハ捨テ顧ミラレ又農村青年ノ為メニ何ヨリ  
モ農村ノ子弟ハ日本創造ノ歴史的原動力デアルト信ジテ居  
ル私ハ再ビ農村ノ身モ魂モ通ジテ祖国日本ニ盡シタイト云  
フトコトガ胸一杯デアル併シ私ハ何オカ出来マセウ此ノ至誠  
此ノ大和魂アルノミデアリマス

人 柏本弁護士

問 十月事件ニ付テ塾生ヲ五名出スコトニナツテ居タト云フ  
ガ何ウ云フ仕事ヲスル心算デアツタカ

答 私ハ何ウ云フ仕事ヲスルカ知ラナイ

問 十月事件ノ内容ハ知ツテ居ルカ

答 橋實際知ラナイ

尚統帥権向題ハ雲ノ上ノ向題テ吾々ニハ農村向題ヤ失

業向題ノ方ガ大事ダト云ハレタ相ダガ何ウカ

橘海軍ノ者ノ話ヲ聞ク点ハ無論サウ思ツテ居タ

尚今デモ左様カ

橘今デハ思ツテ居ラ又

尚大養首相ノ暗殺ハ相像ニテ居タト云フガ舞外ヲ見テ何

ンナニ考ヘタカ

橘想像ハ私ノ失言ダ軍服ヲ着タ軍人が白昼ヤレバ出来ル

ト中村モ云ツテ居タガ号外ヲ見タ時ハ感極ツテ又新ナル

モノガ強カツタ實ニ落涙ガ止マナカツタ

大養氏ハ私ハ常ニ尊敬ニテ居タ建サンハ知ラナイが私行

ニ於テモ立派ナモノデアルト思ツタ非常ニ尊敬ニ價スル政

治家ダト思ヒ犠牲ノ大ナルヲ考ヘ老政治家ノ終リトシテ

ハ一花咲イタト思ツタ





向満洲テ屈強ナ青年ガ護衛シタト云フガ彼方テ相当ノ準備  
デモシテアツタノカ云ヒ難ケレバ強イテ南カントスルモノ  
デナイガ差支ナクバ南キタイハ  
橘夫レハ何ウモエ合ガ要イデスガドウゾ

3 石川弁護士

向農村ニハ米ガナイト云フガ今年ノ様ニ澤山餘ツテ居ル時ニ  
ハ何ンナニ考ヘルカ

橘夫レハ百姓ヲ知ラナイ都會流ノ考ヘ方デ吾々ハ米ノ替リニ  
芋ヲ食フノデアル一割ヤ二割ハ樂ニ芋ヲ食ヒ出スコトが出来  
ル後リニ二割出スト六百石ト云フ米ガ浮イテ来ルコトニ為ル

4 鈴木弁護士

向農村ノ窮乏状態ハ都會人ハ知ラナイガ之ヲ社會全般ニ  
知ラセル機関ハナイカ又何カ考ヘガアルカ  
橘産業組合デ本ヲ出シテ居ルガ先ツ目下ノ処ハ「ゼロ」デアル之ハ  
國家的ニヤラナケレバ駄目ダ

沼  
海軍省が就中政党政協に付て又政變人ニ對せん等  
ハ尙傳來ノ懸念ハ

橋  
事件が三六号ニ至ルハ夕通リテ事件終ハ何等ノ材料モ  
十ヶカ只私ノ念ヲハ現在ノ心境ヲ申上夕通リテアル  
時ニ午前十時十六分休憩ニ入ル

(橋本三三郎終了)

全三十分再拜杉浦(電)一併護士ノ嘆氣ヲ提出アリ文書  
長ハ後教團産ヲ呼出ス

沼  
之カヲ殺害ニ對スル訊問スルガ殺害ノ事件ハ大伴八  
事ノ述ベテ夕通リ力

沼  
後  
系  
様  
ニ  
ス

文  
系  
科  
ハ

文  
系  
ハ  
アリ  
ス

文  
系  
ハ  
家  
庭  
ノ  
状  
況  
ハ

3/1/1

信

父、飯塚孫郎新郡五台村ヲ農業ヲシテ居タカ昭和五  
年六月二十五日死ニシテカ村長ヤ政令等豫知シテト  
加アリマス母ハ今五台村ニ居リマス妻ハ十ク見一人妹二  
弟一妹一人デス

學歷ニ付テ

信 大

大正十三年三月飯塚孫郎立所紅農学校ヲ卒業シマシ

文

夕

經歷ハ予寓調査ニ依リ大正十一年カヲ代用委員職ヲ  
五月訓練等農業委員當任中ノ卒業シ又訓練等ト  
由リ昭和六年九月二十日辭シテ全年十月カヲ橋孝  
云所ノ不之口雜誌ニ入り六年九月カヲ反持等居ト云カ

百選ナイカ

百選ニ付リマセシ

文 信

彼等ハ何ウ云フ家庭者者カ父カシカ

後

其ノ系ニ科ヲ生ニテ環境ニ付テ申上タイ所ノ紅巾ヲ心へ去  
 ル一里高層ナ坊ハ申川ヲ拒ヘ筑城ヲ眺メル氣持ヲ  
 キ環境ニ生テ享テテ所ノ紅巾ノ系像ノ探イ格外ノ方  
 加アリ私ハ自然ニ感マレ日事精神ハ母ノ体内カク塔ハレシ  
 此ノ後ニ家庭物環境ニ付テ私ノ家ハ口土ニ在ケル旧家ヲ  
 旧所ノ紅巾ノ口土トシテお堂ニ重ニセテ子傳ノ頃カク紅文  
 カク堂ニ付テ流ヲ流シテテスノヲ少キ一君美民ノ  
 思慕ハ自下ト芽育クマレシ父ハ所ノカト學ヲ出テカク  
 新設ノ勤メ又村長トシテ般聲シテ村ノ挽回策ニハ隨  
 分努力シテトテテ死ニテカク人ニカサレシ父カクハ直接  
 何モ意ヘテナイガ人習トシテリクメ何物カク典ヘテテト  
 今テモ生心テ居ル  
 母ニテ独立自學ノ念ヲ教ヘテシ毎夜ニ何子自由トク育テ  
 テ私ハ及遊ヲ企テ就極ナ送境ニ隔ツトテテテトハ

3 / 2

實に中絶イラス

文

小学校時代ニハ何ニテ希望ヲ持ツ者タカ

文

私ノ支持者何ハ之ノ月カ至ク月位ニ至ツテ思阿ニハ思マ  
シテカッタ夫レテ衆テ祖父カヲ羨ヘラレタガ何ニ強イラスル  
トトク子尼テアッ

文

中等学校時代ニハ何ヨカ

文

私ガテ種々学校ニ入ッテハ概セノ時代ニ至ケ日本ノ日  
リ良キ至性ニ有リタイト云フ者ヲ一テニ事ノ遊多ノ至  
学校ニ移リ至性ニスルニモ学習シテカラト考ヘ羨ス良キ  
亦ニ遠入ワタノテアルニ上ノ学校ニ入りタカッタガ母ガ大  
ウシタ高メ止メシタ者学校時代ニ至レタニトハ至教ニ  
依ル故友會ノ合衆時代ヲ後進教テハ守至協能カ  
私故ヲ誌士新シテ吾ルノ事至手學生トシテ快ク思ハ十カ  
ワッ夫レカヲ故書ニ対シ觀心ヲ持ツニ至ツタト思フ

文 和

波告ト橋トハ何ニテ別合乗像カ

橋先生ノ家トハ社文ノ時代カヲ特ガノ乗像ガアリテ  
 ハシテ居リマシタ橋先生ノ家ハ之流ノ家ニアリテ文目ニ  
 ツタエトハ十カワツカガ吾性ニナリテカヲ試ノ旅村ヲ勤メテ居  
 カガ後實地式ヲ見付ケタガ命ヲ投ケ出シテ死ト云フ氣  
 ハシテカワツカガ次ニ自ニ眺ツタガ橋先生ノ私ノ処ニ  
 人任ノ妻年カ集ワテ居タガ弟トお禮シ講演會ヲヤ  
 コウト云フノ橋先生ニオテ昭和四年五月ニテ島ノ海  
 濱ヲシテ預イタ下夜生ノ日ハ日曜ニ約六人任集マ  
 カト一高ヨリ胸兼スル座レノ茶藪約十座テマヤリシヤ  
 りリスレノ吾性進出シ吾ニ座徳川ノ時代カノ家公カ  
 ノ座テアリシムヲ徳川ニ及後ヲ驕ヘシ大日本史ヲ建設シ  
 ト云フノハ吾ニ幾極マツテアルカニ吾ニ家ヲシツヤ橋先生  
 ノ私テ旅村ノ指導者ハ他ニナイト然レ先生ヲ中心トシ

一筆ヲ起ス決心ヲシタカテ一歩テ又、生ノ翌日先生ノ書ヲ  
私習見弟テ訪員シ金五五至十萬農民ノ生駈ト  
シテ新血ニ其ノ苦味ヲ起サシ先生ニ話スト先生モ五十分許  
リ瞑橋ノ血共ニヤロト云フ一言ヲ始テ腕ヲ擡リ巨ノ大  
和魂ノ強ク強ク強ク努力スルテ下ヲ契ツタアル生後、夜  
々暮手勢ヲ先生ノ処ニ送シテリク標ニ十ツタノテアリマ  
ス

又 林正三ト、物合稟條ハ  
先程申上マシタ清談會ノ旨ニ才目ニ擡ラタノテアリ  
マス

又 橋ノ生ニ以テ、創立班級事業ト云フ及ノハ橋ノ求  
メタ通リ、如不創立及、生後ニ在ケル生ニ以テ、生トノ稟  
條ハ

生 幹事トシテ切ラテ毛切シ又稟條テス

大、創立当初ノ塾生ハ何人ヲアツタカ橘ノ云ツタ通りカ  
佐、老練デス  
大、事件ノ襲撃計畫ニ参加スル様ニナツタ事情ニ  
就テ

佐、私ハ之来破壊ヲ勤ハ好ンテ居リマセン 是れ共勤労主  
義ヲやりタイト云フ考ヲ持ツテ居リマシタガ鶏ガ卵ヲ  
二百百温メテ喙ヲ突付イテ割ルハ破壊デハナリ  
建設デアルト考ヘテ居タ 昭和七年八月廿四日先生  
が昨日在るナヘ連シテ行クカラト云ハレ用心棒ニ連シ  
テ行クノ如ク思フテ翌廿五日上野駅ニ着クト血  
闘団ノ古内業司、十根、乙ノ二人ニ迎ヘシ井上日及、泉  
ハツキマシタゴロ、寝惚ニテ居ル人百カ居タカ夫  
シガ兼井少佐ヤ古賀、中お其他海軍ノ連中がツタ  
ノデス 橘先生が二階テ農村ノ事情ヲ話スト兼井



三上 殊ニ古勢中尉ハ種々質問多クシテ一層私ノ懇ニ處  
入リテ居ル「農村ガ斯ク迄疲弊スルヤハ」ノテハ「農村  
ノ為メニモヤラナケレバ」ト云ツテ私ハ何ヲヤルハ  
カ分ラナカハシノテス 又廿六日ニハ「日本青年報」ニ  
ツテガ其題ニ居リシ「大川サシニモ」初メテ今更ヒモシテ然  
レ私ハ活ノ要領ハ少シモ知ラナカハシ 話ガ場ニテカ  
川崎君ト板倉先生ノ家ニ訪レテオテ夜更  
シ歸リマシタ 飯ツテカラ橘先生カラ大作ノ話ハ写キ  
マシタ 愛御塾ハ破壊ノ方メテハ十ク建設ノ為デアル  
カラ出来ん 犬塾ニ干係ナク何トカモシテト考ヘ  
学校ハ九月四日ニ辞表ヲ出シ令二十日ニ辞令ヲ奉  
リ十月一日カラ愛御塾ニ行ツテノテシタガ井上日  
氏ガ来テ「モラ少し平御ツテ欲シイ」ト云フヲサ  
ラズトハ「莫賞シタ」テ私ハ十月事件ノ内容ハ先

ク引リマセン

夫レカク暴力的ノ動ハ止メテ愛郷運動ニ従事シテ  
居リマシヤカ古賢中村ノ西氏が一月下旬ニ愛郷塾士  
ヲ訪シ其ノ晩ハ茶話會ヲ催シ古賢氏ハ兵農一致ノ  
挨拶ヲ述ベマシヤ今考ヘマスト五、一五事件ニ是非  
共伴官ニ入レルバク勸メニ来タト思ヒマス

七年二月九日ハ十日乙ハ井上シ三月ニハ因氏カ暗殺  
サレ所御田血無田ノ里幕中デアル井上日左ヲ逮捕  
サレテカラ三月ノ下旬ト思ヒマス古賢牛尉カラ華  
命ノノ破壊ノ事ノ快意ヲ達シテ橋先生モ亦ニ  
其ノ話ヲ聞カサレ事ハ如斯ニ進ニテ辱ム以上ハ暴力革  
命一モ又已ク得ナイト考ヘ皇國日本ハ西洋ノ物  
質文化ニヨリ利己的ノ干係ヲ愛國同胞ノ觀念ヲ  
失ヒ斯ノ如キ状態テハ一君美民ノ團結ハ滅亡ノ危機

二重面として吾り非常平和の新國民の覺醒と  
農村の認識ヲ高メ三千万農民大衆の餓死スルヲ忍  
び不救國済民ノ為メ又軍部少壯士官が單獨に  
動ニ出ルト軍部獨力トノ非難ヲ受クハ虚アリ革  
新ノ前途トして吾々ハ起テテハ又吾國至城ノ  
平ヲ古怨、中村等ヲ一君と延バラレテ何ラニテ  
吾々が吉田松陰先生ノ

斯くすれば斯くならずとの知りながら

やむにやまぬ 大和魂

ト云フ心事ニテガレテ得ナカッタ日本革新ノ為ニ  
身ヲ捧ゲテ去スベキナルト考へ昭和七年四月、初  
メヨリ爆彈ヲ以テ妻電所ヲ襲撃スヘキ計畫ニ  
参加スル様ニありマシタ

六、現在ノ社会ヲ破壊シテ何ニナシ社会ヲ造ラウトス

ルカ橋か並へ夕カヲ簡單ニ

佐、  
私ハ國体ヲ變革せんトハ考へテ居ナリ 世界ニ比類ナキ  
日本ヲ高敷ニ擧因ヲ一掃ニナケレバナラン 夫レハ政  
變政治ナルト考へテ居ん 一君民ノ旨ニ介在せんハ特權  
階級、財賦テ之ヲ制スガ者々ノ心ヲ控テアル 其後ニ建  
設スベキハ皇道的ナ農本的ナ皇道國家ヲ皇道精神  
神の眞實ノ上ニ現レタナラハ世界ニ類ノナク日本ノ國  
が出來止レト思フ 其ノ方が出來レバ 新が申止ケん迄モ  
ナク自然ニ出來ルト信じて居ん 農本自恰トハ農村ヲ  
重トシテモノ上ニ商ノ業が建テラレルナル也ニテ政  
治ニ經濟場ニ新クニ打立テナケレバナラヌ 殊ニ經濟場  
ハ是非共統制ニ農民ノ利害ヲ交々視してハナラヌ  
ト思フ。

時ニ午前十時五十分 一時間ノ休憩ニ入ル

午後一時七分開 午後二時十分開 午後三時十分開 午後四時十分開  
午後五時十分開 午後六時十分開 午後七時十分開 午後八時十分開  
午後九時十分開 午後十時十分開 午後十一時十分開 午後十二時十分開

六、  
午後二時十分開 午後三時十分開 午後四時十分開 午後五時十分開  
午後六時十分開 午後七時十分開 午後八時十分開 午後九時十分開  
午後十時十分開 午後十一時十分開 午後十二時十分開

七、  
午後二時十分開 午後三時十分開 午後四時十分開 午後五時十分開  
午後六時十分開 午後七時十分開 午後八時十分開 午後九時十分開  
午後十時十分開 午後十一時十分開 午後十二時十分開

村長や吏員ノヤツテ居んコトハ子供騙しノ標テアル級場  
ハ酒場ト他ノ級場ノ事務ヲ学校ニ写キニ来ルト云フ  
有標テ曰キノ農村自治ノ確立ハ出来ナイ。

大、選挙ニ対スル意見ハ

後、上陛下ヲ諷シテ公民権ヲ盡キ盡ハテ國ニ選挙

ハ一般ノ利益ノ為メテハナク一部ノ利ニ限ラレテ居ん

衆会中代議士選挙ノ等等ハ一月位ヲ費シ收ムル又

其ノ金ヲ受取ラナクト後テ何モヤツテ呉レナイカラ

困ルコトヲ村ニニ五人位確リシテモノカ居ルハ其事ト云

来トト思フ

大、村ノ財政状態ニ就テハ

以下次第

后

村ノ財政ハ才話ニナラヌ又悲慘ナ型ヲ私ノ調ベガ  
川田村ハ年收ニ十ヲ系デ戸数ハ四八五戸元一戸  
膏リ五石系ニ恫タナク收徳ヲアル納税ヤ備  
金ノ利拂ヲ差引クト食フモノガナクナリ仕舞ナク  
而モ夏程ガ田原ホニ邊元セラレ收入ノ途ホ謀ゴラ  
ルハナラバ良イガリレカ公赤ナク針致ヲ確立ナラケ  
レバ村ハ潰レテ仕舞ナク

才

役場ノ委員村ノ有志ニ対スル意見ハ  
役場ノ委員其中デ又村長ハ村ニ於ケル物持デ  
アルガ自分ノ為ニ村會裁員ヲ買取止改免ナ  
係止自治体ヲ改免化止村ノ有志ニ合議ナラバ  
役場委員ノ酒代ノ足止ニスル人々其業ニ失敗  
シタモノガナク中ニ一人位良イノモアルガ他ハ全  
部井ウテハナイ役場ハ常ニ酒場ニ化シテ居ル

状態が

才 村ニハ親分乾分ノ干係ガアルガソレニ対スル

之ハ封建時代ノ遺物デアル所ガ麦畑墾ニ這入リ

夕時ニ親戚カラ及村サレタガ親分乾分ノ干係ヲ除

カナケレバ乾分ハ親分ニ奴隷視サレテ居ルデアル

才 今デハ親分ト言フノハトニ十人カ

物持テデス

才 村ノ駐在巡查ニ対スル不満ハトウカ

后 此ハ駐在巡查ハ政党ノ犬トシテ思ツテ兵千一遣

隊ノ為ニ働ク又デ云守ノ為ニハ何モシテ

日本ノ警察第ハ軍部才面デ云フ財閥、特権階級ノ

私兵、番犬等ハ最モ適切デアルト思フ警察部長

ヲ排シテ換率ノ手ニ警察ヲ移サネバチラント

思フ



才 政党ト治水工事ニツイテハ

民政デ治水工事ヲマラウト之レバ政友ガ及對シ又

政友ノ時ハ民政ヲ及對スル其悪影響ハ甚カラシ

私ノ勸メテ尾ノ川田村ノ貧シキ原因ハ何処ヲト

云フト政党ノ争ヒノ犠牲ニナル爲デアル

才 貧困兒ニ對スル村ノ義務ニツイテハ

班在テハ自治体デハ貧困救済等ハ出来ナイ、役場

委員ハ自分ノ負擔ハ先ニ備リルガ、ソコト事ハ少

シテ願ミナイ、農翁ニハ人情味カアルト言フガ現

在ハ別ヲヒリメテ尻尾状態デアル、予算ニハ第一

番ニ斗上シテナクシバ夏フベキ状態ニナルト思フ

才 村ニハ部落ガアルが部落ト村政ノ干係ニツイテ

被害ノ不憐ノ矣ハ

后 各部務ハ思ヒクニ部落根性ヲ出ラテ腐ヲ劑

以テ居ル、之ヲ取除カテ今ハ同満ナル村政ハ出来ナ  
ク、郡務ノお長ニアラズ天村金作ノ村長カナイト  
云フ状態デアル、村ヲ一九トシテ進ニスル所ニ今ノ  
青年デマラナケレバナラヌ

才  
郡政停止ノ当村群長ノトクク態度カ要ク上云  
フガ其矣ハドウカ

后  
郡政停止当村私共ノ郡長ハ村ノ冬、細十金ヲ集  
メテ教育基金ヲ設置シテ仕舞ツタワシハ一個  
二、三回毎ノ時計ヲ三、四回ニ具セテ小學校ノ校  
長ニ配シクノテアル、ワシニ村ニ校長ハ一二年毎ニ  
述ベル者ハナカワタノテアル、其時私ハ勇氣力ナシ  
人格ナ者ハナリト思ヒマメ柄ト思ツタガ踏止ツテ  
防壁ト物ト思ヒ止ツタノデアルガ其郡長ハ今  
戒物院ノ事務長トシテオサマツテ居ル。

現在ハ該應化レノ上手ナ者デナケレバ駄目カト云ク状  
態ダ

才 小學校教育ニ対シ六項自アルが校長カ農業ニ対ス  
ル態度ニツイテ

后 小學校長ハ農務ニ何等ノ理解モナク、只予算  
ヲ多ク取ツテ自由ニ使ツテ宣伝加甘クノカ腕カ  
ルト云ハシテ居ル、農家ト学校ガ一致融合シテケレバ  
眞ノ農務教育ハ出来ナイ、此儘デハ日本ノ将来ハ  
危ナト思フ大部分ノ校長ハ村ノ有志ヲ訪問シ何  
等ノ仕事モセズ実ニ亡者形デアル、

才 小學校教育ノ勤勞地ノ弊害並小學校ノ予算  
ニツイテ

后 予算ニツイテ申上ゲマス、小學校ノ予算ハドウ云ク  
風ニ使ハレルカト云フト金ク少ナク、旅費等ハ殆

シド校長一人デ、实例トシテ校長ガ転任スルト其後  
へ借金取りガ来ル、ソレヲ支拂フト云フ状態デア  
之ガ強シド習横トシテ行ハシテ居ル、以ニ教員ハ勤  
勞地ニ所任シサケレバ本當ノ御土教育ハ出来ル  
ノデハナク、是非共小学校ノ教員ハ勤務地ニ所任  
スル所ニシサケレバナラント思フ

才  
小学校ノ教員ノ昇級、移動ニツイテ教育界ノ腐  
敗状況ハ

后  
之ハ全面的デアルト思フが昇級、移動ハ金デ  
買ハレルノデアル校長級デ三〇〇円カラ五〇〇  
円位出サ  
サケレバ校長ニハナク、平訓導ガ主席訓導ニ  
ナルニハ五〇円カラ一〇〇円俸任校長ニハ一、  
〇〇〇円  
物視學子ニモ其任ハカ、ル、裨益ナル処ノ  
教員ガ物  
亦ノ如ク金デ買買ハレルコトヲ考ヘルト十年  
後ノ

日存一ヲ憂ヘサルヲ得キ、之ハ大概待合等ヲ令  
ヲ俟フノデアリガ九月十九日ニ欽城嶺ノ監視學ガ  
收購ヲ收容シレタト固キマラタカ此植松芽雄ハ笑  
ニ狡猾ヲ私ニ注意シタコトモアツタ、彼等ハ三人、五  
人ト徒然ヲ想シテヤウテ居ルノデアリ、欽城嶺否日  
本教育界ノ爲ニ不正ノ州ヲ充分ニ學ゲタリト  
思フ、之ニ改氏ノ代議士カ糸ヲ繰リテ居ルト思フ  
田家ヲ毒スル罪ハ笑ニ大ナルモ、カアル爲ニ視學子ノ  
妻君等ハ「ヒステリー」ニナルノデアリ、買収ノ果シルノハ  
尙亦切手カラテアルカ或視學ノ如キハ自分一人ノ力  
テハ防壁一出來キト云フテ去リタ人廿ハアル又校  
長ノ中ニハ倦ハ物ノ民政ノ幹事ダ政友ノ幹事  
カト云ツテ威張ツテ居ル馬鹿者ニアリノデアリ、故ニ  
硬且僅ハ其職ニ止マル事ハ出來キ、ソレハ學子

務部一カ布カレラカラ一層甚おしくナクト思フガ之  
ハ政費ノ進出アルト思フ、断然起リテ之ヲ改革  
シテレバ日本ノ将来ハトニナルカ分ラナク、換テ  
諸公ハ水戸ノ如ク片端止カラ引上ゲテ頂キタイ、

(以下省略)

六 現在ノ小學校教育ノ心情ニ付テ不満ノ實ヲ  
以上申上之ニテトニ依リテ分リニナツト思フ農村ニハ

農村ニ適シテ教育ヲシテカクナラバ農村ノ改革ハ  
来ヤイト考クマス

オ 小學生ノ用品ノ買入シニ付テノ不満ハ  
學用品ハ國家ガ賣ル様ニシテ良イト思フ現在

デハ學用品ノ儲金ハ教員ノオ茶菓子ニ變ツテ  
居ルノデアル私ノ居テ學校デハ今年ニ四百円ノ儲ケ  
ハアツタ夫レテ三十円位ノ先生ガ一人雇ハレルコトガ出  
来ル之ハ全國的ニ統一ニシテハナラコト思フ

オ 判長ハ休憩ヲ宣ス時ニ午後ニ時十七分  
午後ニ時三十九分再開后藤ノ陳述ハ續ク

オ 農村生活ニ付テ農村ノ一戸當リノ收入ハ

私ハ小學校教育ノ一六十五円ノ月給ヲ貰ツテ

居リマシタガ 農家デ私ノ右ニ出ル收入ノ家ハテカツ  
タ デアルカラ私ノ收入ハ農村ニ於テハ實際惠マ  
シタ 收入デアツタ 農家ノ收入ハ先程申上マシタ  
梯ニ五百円トシテ 肥料 飼料 借金 貯蓄ヲエルト食  
フコトハ出来ナイノデアル 収入ガナイノデ子供ノ着物モ  
ナク 梯ヲ始メデ病多ニナツテモ一医者ニ掛ラズニ死  
ンデ仕舞ッタノヲ私ハ見タコトガアル 負担ニ付テハ  
官吏 商ノ業者トノ割合ヲ申上ルト 官吏ガ一ニ對シ  
商ノ業者ガ二ト云ヒ 官吏一ニ對シ 農家ハ六ト云フ 率ニ  
ナル 詳シク申上ラシナイノハ私ハ遺憾デアルガ日本  
ノ政治ハ官吏式ナ政治デアルコトハ之ヲ見テモ今アル四  
民平等ノ取扱ヲシナケレバナラント思フ 検事サンヤ 鉄  
道従業員ハ政府ノ減俸ニ反對シテ 賤カツタ(此ノ時  
本内 検事等 苦笑スル)ガ 農民ハ斯クノ如ク 压迫サシテ 居



ルノデアアル

冠婚葬祭ニ付テ

私ハ父ノ死ニダ時ノ葬式ニ付テ申上タイ

親歳中ハ一週間位来テ居リマシタガ農村ハ大キイ

家程永ク置クノデアアル其ノ時私ニ家デハ午田以上ニ

掛ツタノデアアルガ夫レハ食ニ食ヒラズルノデアアル毎食ニ

飢鬼道デアアル之ハ徳川ノ令負農化政策ダツト教ヘラシ

タガ実際サウダツト思フ葬式ハ嚴肅ニ短イ時

デアラナケレバナラント思フ婚式ニ付テモ午田以上

ル私ノ家ニモ姉ニ人姉一人居リマシタガ相当掛ツク

デシタ私ハ学校デ農村ヲ帰クトシテノ婚式ノ心得

話コトヲエトガアルガ夫レガ隣村迄モ知シ多ク扱ヒニ

顔ヲ見スレタエトガアル

オ

川田村ノ食見之里ニ対シ被告ハ大分放惰手段ヲ満

6、ノ

佐

シテヤツタトキツガ甚ノ莫ニ付テ

私ガ眞当ノ農者ノ疲弊一ヲ知ツタメノハ昭和四年一月頃デシタガ一組デニムカミノ位例レルノデ日ニ照ラサシタタメカト思ワテ居ルト毎日例レルノデ川田村ハ早魃ニ掛ルノデ財政状態ヲ調べテ見ルト朝飯ヲ食ベナリト云フユトガ分ツタ私ノ組ハ村デ一流組デアツタガ欠食見ハミムアツタ給一。パーセントアツタノデアル澤庵ヤ梅干御飯モ私等ガ刑務所デ食ヤルノハ上ノ部デ其ノ他ハ味噌ト塩デアル私ハ鬼ミ里ヲ見ルト涙ガ出タノデアル或時家庭ヲ訪向スルト親ガ子供ニ学校ヘハ行クナ学校デ倒レルト外南ガ悪ク倒レルナラバ家デ倒シロト云ツタト云フノラ南イタガ之ハ正ニ全地獄デアル之ハ正ニキ親心デ御座イマセウカ食ヘナリ爲ニ云フノデアル之デ一君万

民タル天皇ノ赤子デアルヤ否ヤ 靈少年小學校ノ推名  
龍徳先生ノ「生きる非哀」ト云フ本ヲ讀ンデ都會  
ニハ斯レウ云フコトガアルカト 思フタガ私ハ二十八才ニシテ  
切齒握腕シタノガ此ノ時ガ始メテデアリマス 政治ヲ呪  
ヒ去ラモ呪ヒマシタ 私ノ家ニ集ル青年ノ中ニ正月  
デアリ乍ラ縄ナクテ居ルモノガアル夫レハ米ガナイカラ  
デアル 我ハ其ノ慘レナ者ヲ救フテヤツタコトガアル然レモ私  
ノ存リ貧乏村デハナイノデアル 他ノ村デハ教員ノ月給  
ヲ折ヘナクト云フテモ我ハ一日ニハ尙違ナク折ッ  
タノデアル 我ハ俸給ノ度ニ悔ンダモノデアル 是等ト  
相談シテ村ノ爲メ 青年ノ爲メ 食糧ノ爲メ  
六十五円ノ俸給ヲ毎月使ヒマシタニテ年有餘ハ  
俸給ノ金ハ全然我セズ 食糧且之屋ノ爲メニ匿名テ  
警察ヲ通シテ小爲替ヲ送りマシタ 夫レハ警察ヲテハ

適當ナ方法デ宣傳モズルゾロウト思フタガ何事ノ方  
格モトウナク之ハ誰ニモ話ヲシナクノデ到之名前ヲ  
知ラシナクワマンデ之ガ一度新聞ニ書ルタノデ郵便局デ  
注意シ出シマスト云フノデ鉄道デ着物ノ甲ニ入シテ贈ル  
ト云フ様ニ思量ノ爲メニ消極的ナ方法ヲ執リマシレ  
タ又ニ度ノ食事ヲ快ズ一席ハ省ラ生徒ニハ母ニ頼  
コジ握飲ヲコシナクテ甚ヒ一般ノ子供ニ知ラナク様ニシ  
テ食ベサシタモノデス之ヲ陰ニ陽ニカラテ流ヘテ預イタ  
人ハアルノデスカ事件后愛御塾ニ関糸アリトシテ左  
遷サシタ初田勝君デアル此ニナ人ハ左遷所カ模  
範トシテ歸デハ表彰シナケシハナラコノデアル收入ガナクノデ  
死ニデカク医者ニ誘テ考つ夫レハ何ノ爲カ埋葬ナシ  
可記ヲトル爲メテアル一方小川小橋山梨等ノ  
醜類其他尾斯勳章ヲ疑獄等ニ関糸シタモノハ集

二 國賊デアルト思フ。

私ハ式時 医者ニ車代、丈デ診テ勞ソタトカアソタカ  
其ノ子供ハ病命ト云フカ到レ死ニデ仕舞ソタ 斯ウ  
云フ事ヲアルト 野郎ガアルカラダト云フガ私ハ野郎ガ  
アルナラバ何デ六十五月ノ金ハ捨テマセン 其ノ前ニ私  
ハ教員ハ永ウヤラナイカヲ無報酬デ使ツテ呉ト 校長  
ニ云フト云フ鼻ヲトルノニ之合ガ悪イカヲト云フノデ午  
當デモト断ルト之モ云鼻ノ都合ト云フノデ 駭目  
ダソタ 又毎月三月宛 送入ル様ニナソタノデ私ハ毎月青  
年ニ 貯金之ル様ニ 勧メテヤソタノデアル 私ハ申止タラ  
ハナイガ 上層階級ニ云テ 勞イ度イ處ニ 却ナイ 胸ヲ押  
ヘテ申止ルノデアル 私ハ一番 幸福ヲ感シタノハ 子供ノ  
老フ 顔ヲ見タ時デ云タ 以上デアリマス

才判長ハ 農ニ 農村青年ノ 思想問題ニ 云テ 親向セント

てタルモ被旨后藤ハ堀カ潤シテ声ガ出マセシカラスト新ハ  
タルニ依リ裁判長ハ夫レテハ今日ハ之デ打切り女回ハ  
奉ル十三日午正九時開廷ニル旨ヲ述バテ開廷ヲ宣ス  
時ニ午後三時三十分  
右及甲(三連)報候也

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 申、候、也、及、甲、三、連、報、候、也、時、三、十分、午、正、九、時、開、廷、ニ、ル、旨、ヲ、述、バ、テ、開、廷、ヲ、宣、ス、タ、ル、モ、被、旨、后、藤、ハ、堀、カ、潤、シ、テ、声、ガ、出、マ、セ、シ、カ、ラ、ス、ト、新、ハ、タ、ル、ニ、依、リ、裁、判、長、ハ、夫、レ、テ、ハ、今、日、ハ、之、デ、打、切、り、女、回、ハ、奉、ル、十、三、日、午、正、九、時、開、廷、ニ、ル、旨、ヲ、述、バ、テ、開、廷、ヲ、宣、ス、時、ニ、午、後、三、時、三、十、分、右、及、甲、三、連、報、候、也、）

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 申、候、也、及、甲、三、連、報、候、也、時、三、十分、午、正、九、時、開、廷、ニ、ル、旨、ヲ、述、バ、テ、開、廷、ヲ、宣、ス、タ、ル、モ、被、旨、后、藤、ハ、堀、カ、潤、シ、テ、声、ガ、出、マ、セ、シ、カ、ラ、ス、ト、新、ハ、タ、ル、ニ、依、リ、裁、判、長、ハ、夫、レ、テ、ハ、今、日、ハ、之、デ、打、切、り、女、回、ハ、奉、ル、十、三、日、午、正、九、時、開、廷、ニ、ル、旨、ヲ、述、バ、テ、開、廷、ヲ、宣、ス、時、ニ、午、後、三、時、三、十、分、右、及、甲、三、連、報、候、也、）

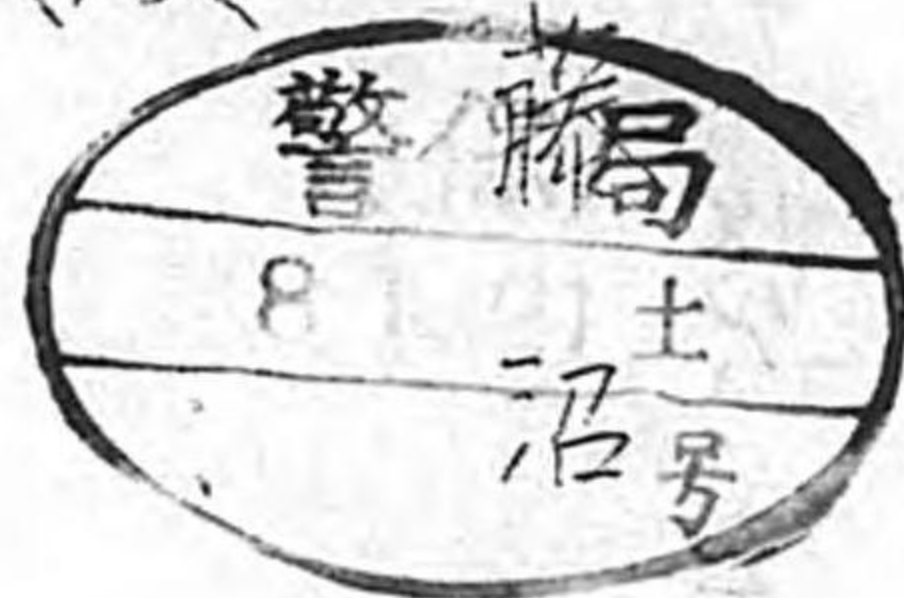
特高秘二第 四八七八號

昭和八年十月十二日

警視總監



内務大臣 山本達雄 殿  
各廳 府縣長官 殿



左平

五、一五事件民間側公判判狀況ニ係スル件

(第八報)

標記第八回公判ハ本日午前九時七分開廷午後三時三分  
閉廷也凡ク其ノ狀況左記ノ如シニ有之

記

一日時十月十二日 至自午前九時七分

一場所前報令



一、係判檢事右全

一、被告人 右全

一、兼護人 (本日出席者)

石川 淺 稻川龍雄 池田謙太郎 池田 操 若松孝雄

花井 忠 星野良雄 若井孝太郎 龜山 要 柏木廣史

金石一夫 栗原寧之助 前川盛一郎 深作貞治 藤沼 光

遠藤榮三郎 木村半之助 宮下巖 森田重次郎

杉浦武雄 植田亥之吉 以上二十一名

傍聽人

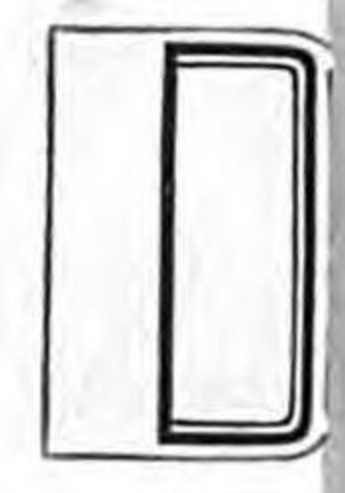
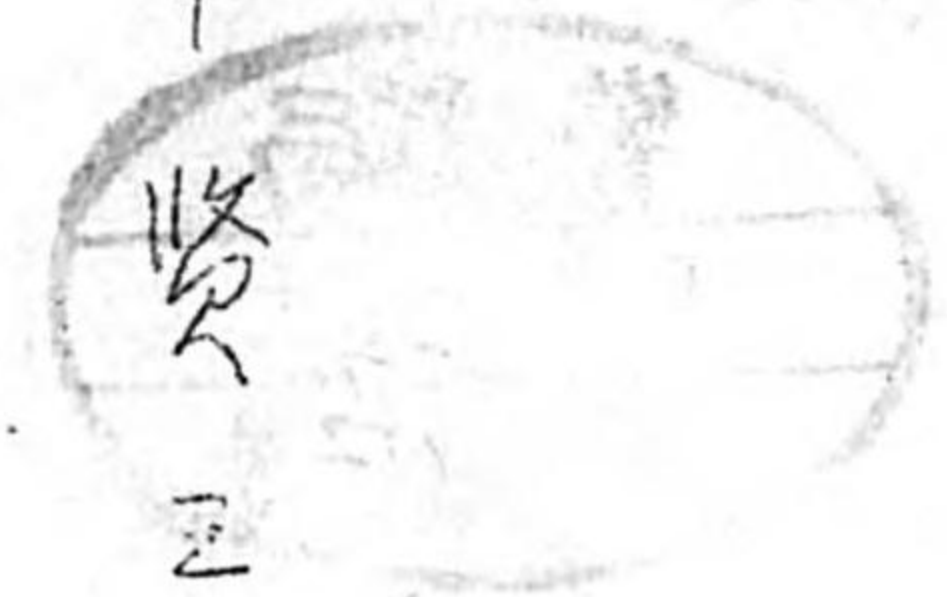
一、一般傍聽人 四十名

又特別〃 二十三名

又家族〃 三名

一、特別傍聽人申 (五十七名)

文部省囑托 岡 本 賢 三 郎





二

上陸憲兵少隊長

米原 穰 豊永 綱雄

高千穂高等警察

嶺岸 忠之助

憲兵隊隊長

曾野 芳彦

陸軍省軍事調査委員

岩代 次修

憲兵司令部員

山中 大尉

一 法廷内ノ状況

八年前八時十六分被告橋孝三郎以下十七名押送自動  
車三台之合乘市ヶ谷刑務所より裁判所構内御堂町着  
各出入口地下に於て法廷内内外より常服憲兵巡警各員看守  
等にて警戒スル事 従前ノ通り

又午未八時五十分より五年後人右方後にて入廷正九時裁判  
長以下各被告九時五十分被告等二傍聴人右方後にて  
入廷着席ス

3. 名被告、振装及遊記志二名ヲ附スル事、元延秀名被告ニ

大毛等之鉛筆ヲ手交スル事、送券ノ通リ

4. 元延之先子飛山年、後人ハ多ク、元延復士命也、至子莫一可

十六名ヨリ、上中書並年、後人ニ對スル依取状、胸山、新平

所、田所、平、備、陸、軍、歩、兵、中、藤、藤、田、善、助、介、一、千、五、十、

九名ヨリ、嘆息書ヲ、合、情、州、各、地、在、任、日、鮮、情、落、人

吉、お、孝、お、り、外、八、百、六、十、名、ヨリ、嘆息書ヲ

植、田、年、後、人、ヨリ、八、坂、坂、坂、西、坂、坂、郡、望、五、所、後、田、孝、雄、介

四十名ヨリ、嘆息書ヲ

栗、原、年、後、人、ヨリ、八、山、口、牧、豊、浦、柳、豊、田、中、村、廣、中、宗

花、介、八、十、名、外、八、島、松、市、三、川、所、亦、一、七、二、寺、高、田、日、暢

合、時、總、代、山、本、年、花、介、後、人、代、表、廣、江、ウ、夕、以、下、二、十

名、ヨリ、各、之、嘆息書ヲ、送、附、シ、来、ル、ル、加、何、レ、モ、一、七、二、寺、高、田、日、暢

送、券、ノ、外、レ、ト、大、同、山、美、ノ、毛、ノ、十、六、省、略、提、出、可、致、二、付、何

平中寛大ナル由及分アラム事ヲ為フトニ廷下ニシテ  
裁審長ノ許ニ提出ス

5. 年表九所七分罷廷裁審長ハ原告被告同登ヲ呼出シテ

回ニ引續キ合被告ニ對シ事實審理ニ入ル

6. 年表十所十分裁審長ハ廿分原告ノ休憩ヲ宣シ合十所三十

五分再罷被告ノ被告ノ証言ヲ録テリス

7. 被告ノ陳述ニ對シ龜山弁護人ヨリ「裁判長！被告ハ

咽喉ヲ痛メテハ唇ル様タガ今火シ大キナ声テ有テハ交イ

ト思ヒマスガ「トテ被告ノ大声方ヲ希望スルハ裁審長

ハ「ハイソウテスカ「トテ被告ニ對シ「火シテハ今火シ大キ

ナ声テ話ス様ニ「トテ被告ニ對シ「訊官ヲ繼續ス

8. 年表十一所五分裁審長ハ再ビ休憩ヲ宣シ「年表十二所

五分合「年表十三所四分再罷原告同登様

「年表十四所十分裁審長ハ「年表十五所「休憩ヲ宣シ「年表十六所四

十分再見前記各様

10年12月25日の三ヶ後後園を以て對する事實を處理し終りて  
無事冥廷に歸る來り十月十四日午未九時より飛延股  
若林正三之對する事實を處理せし豫定

一、被先後後園を以て對する事實を處理し概要

又、前園を以て引續い子訊問するが被先ハ若村喜年ノ思志  
歎之就子申ら述べたいト云々居ルが既年ノ變化坐俸之  
就子ノ意見ハドウ考へ居ルカ不

被、一寸、生ノ前ニ前園ノ飲食史を對せん強ヒテ附ケたいト  
思ヒますカ

又、夫レテハ申し述ハテ見給へ

被、前園申し述ハシテ様々若村ノ飲食史を以て飛延股ノ増  
加しテ來マシテ殊ニ昭和五年ノ坐解禁以後ハ如何  
ク私ノ勅メテ居テ川田村ニ又増山アリマシテ生ノ前ニ

毛お膏見交ケマシメシク早抜ノ後ニハ米ハ出来マセニカ  
ク馬齡草ヤ薩摩草ク作クテ喰ハク居ク様テス  
ガ子供ノ心理状態ハ余也ニ持クテ事々セニテレク私ハ  
時々是等ノ家ノ子供達ヲ訪見致シメシタガ是飯ノ  
波等馬齡草ノ入ツテルモノクキマリ忌ガクテ隠スト云ク様  
ト為様テレク如ク米ク作ル農民カ米カ喰ハナイノテス  
若負等是等ノ農村ヲ思フ者等アリモシ偶々一人カ之人  
トハ奴等ハ此ノ被等シ教育者トシメイトスル手好  
ニ辨ヘルノテアリモ私ハ女レク潜リ抜ケテス言ク言  
同断ナル彼等ノ醜事ソレテ被等ハ至ノ奴隸ニレテ農村  
改善ノ氣持等モ強アリモシテ私ハ其等ノ和ノ食  
事ヲ飲食也重ニ分ケテヤクナイナト思フテ胸カ張り  
衆ケル思ヒカ致シメス

以上私ノ飲食也重ニ言ク之數スル強トト致ラヌ

次之、お務、私ノ受へ、筆書が来り、こし夕カ、私ノ勤メテ居、  
川田村ニ十月、上旬カラ、午フスガ、発生、致シマレテ、村者、高ハ、  
狸中、如古、テスガ、院ニ、死亡者、八名、入院患者、八十名、此ノ為  
メ、村テ、一、集、集ノ、村、債ヲ、生、ジ、夕、ト、ウ、ラ、テ、是、シ、テ、返、瀉、ス、ル、カ  
憂、ハ、テ、居、ル、ト、云、フ、事、テ、レ、夕、又、隣、村、ノ、事、年、カ、ラ、ハ、川、田、村  
ハ、午、フ、ス、ガ、猖、獗、ヲ、極、メ、院、ニ、死亡者、八名、入院患者、約、九十名  
テ、全、國、ノ、記、録、ヲ、破、ツ、タ、ト、ノ、事、テ、ア、リ、ス、カ、是、レ、テ、ハ、全、ク、手  
ノ、所、ケ、様、ハ、ア、リ、ス、何、卒、一、申、貴、局、ヲ、取、ヒ、ス、ク、

テ、ハ、只、今、一、信、官、ニ、對、シ、テ、ハ、

既、年、ノ、發、他、患、体、ハ、ト、ウ、カ、ト、申、シ、ス、ル、ト、何、ノ、希、望、亦、テ、ス  
加、強、地、方、テ、ハ、救、済、学、校、勸、進、也、何、程、ノ、訓、令、亦、学、校、也  
一、五、帝、訓、令、等、が、主、ト、ナ、リ、テ、著、頭、ヲ、取、ツ、テ、マ、ツ、テ、居、リ、コ、シ、夕  
何、故、ヲ、ウ、カ、ト、申、シ、ス、レ、バ、院、ニ、齋、敗、墮、落、シ、テ、者、夕、知、發  
育、會、ヲ、庇、護、セ、ル、カ、為、メ、ト、申、ナ、ラ、ナ、カ、ツ、テ、ア、リ、ス、ク、

文

親

如加

然し私へ是等々全然お手こしませぬ。コレは何かおとすハ多ク  
 餘程ノアル事子孫ヲ勸誘シテ居ルモノト申シテ申イマシヤ  
 乞所迄ノ事ハ内宮ハ橋先生モ云ハレタ様ニ疎ニ子届ナモノ  
 予レテ貴化進体トシテノ徳打ナシカアリマセシテシヤ仲ニハ  
 加學ニナケレバ老還サレルカヲト云フ様ナ事ヘカク事加レタ  
 様ナモノモ多数アリタ様テ申シイマシヤ  
 一宮ノ次ニハおとニ事領ノ事手カ立ルニ就イテ不届ガアル様

老做事手ニハドウニテナルカト申シマスレバ逆境ニ在ん志力ナ  
 ルトハ合意ガナキマセン都府政ノ事ノ願ノ良イ志ガナリテ  
 終ヒマスカラ口先ノ理論等ヲハ申ス叶ヒマセン後ツテ村ノ會  
 合等ヲハ事ノ事相事手ノ意見等述ベル事ガ出来ナ  
 クナリマスソレテ都府政ノ事手等ハ日々階級斗争  
 階級斗争許リテス判リヌレタイヌクヌニ事家等許リ

分

文 祝

トネリト廻シテ農村改善等ノ氣持如キハ全然アリモ  
私ハ大反討テシタムテ途中等テ會ワテ天祝等ハ進分シ  
様ニシテ着クニコレソ

次ニ既年変化ニ伴フテ一ノ氣休テクモ  
年連ニ対スル意見ハ

祝等ハ馬牛馬ノ如ク力ヲ使フテ働クニテ何事  
カト云フ事ヲ考ヘ又去年テアリマス一面力ヲ用ヘハ彼

等カ在シハマシ農おカ係ニルノ外ト思ヒマス  
ク只働リカラユイト思ヒタム

私ハ或ル日一日彼等ト話シタ事カアリマシタ  
二年ノ昔以ト思ヒタカ私ノ評ニ去年カホツク集

ツテ来ル様ニナリニシタノテ彼等ト文ヲ見スシタ  
ノ内ハ大シタ話モシタセシテシタカ好ト自分達ノ事

ヤ村ノ話等ルン様ニナリニシタカ私ハ希望カト思ヒシ



テ當時ノ私ニ出車得ル範圍ニ在テ者籍等モ利用スル様ニ  
備ヘテ置キマシタラズある一人強ヘシテ来タテシタカ  
テ直借ハ致ラマセテシタ私ニハ徳カ無カソタカラ  
ト思ヒマス早シテハ流シテリノ様ニサナリマシタ  
ト一ニ云テハ駄目テスカラ何トカ仕度イト思ワニ  
此親モヨク私ノ氣持ヲおツテ榮シマシテ命ノ安ノ任  
ハソ一様ヲ手入ラシテ任メル様ニシテマツテ榮シマシタ  
歎ク彼等ノ讀者お手ニテマシタル事カ私ノ歎ノ任  
下リマシタ中ニハ氣ノ毒ナ者モアリマシタカ彼等ハ  
此等ノ事ヲテシタノテ放任シテ置キイメ日ニハ  
下モノニテソテ終ワト思ワタテス又普通  
ニ海ル事ハ支親等モ信用シマロンカ私ノ  
心シテ信用シテ居リマシタ  
又カ茲ニ一ツ官職ハ秩等ニ出ル事  
カ減クテ来タ事

アリスス私ノ勅メテ看ル学秩ヲモリトテ話クヤリカ  
カカテモウツクシクテ私ハカクテ勅書  
ノマシタシ夫レ許リテ勅クドウカ来テ呉レルナ私カ何  
カ中ノクノ様ニ思ハレテ困ルカト云ツテ来サセマ  
テモレ  
勅書送ハレトモ身ヲ藉サ知果テハ秋ノ先生送ノ  
急ハサヘ云フ様ニナラテ終ヒマシタ私ハモウエウ  
テハ既同ノト  
思ヒマシタガ一面モウハメノタモノ如ト思フ  
哉ヒマシタソコ  
分年ニ解シテヤリマシタソコノ新ハ一週  
書ハ四四  
御算程ノ後書農事ニ採ルハ後ハ  
悔ノ三  
研老ト申  
シテモ農おノ可敷おノ自協  
楓聖飛生等ノ宜敷ヲ研  
究サセマシタ  
カカテ私ハ農お  
麦年ノ防除ノ如  
クハおエ  
豫  
算カ無クテモ  
人ガア  
レバ出  
来ルト云フ  
確信ヲ  
握リ  
マ  
シ  
テ  
亦  
之  
麦  
年  
は  
ハ  
然  
ハ  
テ  
来  
マ  
シ  
テ  
遂  
ニ  
ハ  
三  
十  
九  
日

概二十リマシタカニ内テヨリ第ルノカ六七名中位十カ七  
ハ名ニ他ガ十カ七名位テシク有御私ハ人々延是等ノ指導  
ニ経験カアリマセンデシタノテ聊カ有御我ニシテ危ニテ居  
リマシタ矣ニ私ハ所任ノ新カシニ依テ橋先生ガ自分ノ補復ヲ  
求マテ居ラシルノク見エシテ我カアル交カアリマシタノテ和回手  
五月ニ平書ヲ初メテ先生ノ講演會ニ出席シテ講演シヤソイ  
テ此ノ演説ナル所後ト而シテ此ノ精神約ナル偉大ト人  
物ナル親テ知りマシタノカ抑モ此ノ會ヲ作ル動機トトツテ  
ノコアリマシテ私ノ方ノ書キ年カ此ノ母体トトツテ出来トマシ  
タ

大 次ハ蒙お喜書ノ段書字一節ヲスレハ致意焉カ在途ニカハル  
ト云ノ事ハ

祝 夫レニ就イテ申上ケマス橋先生ノ全ク私心ノ無ク蒙お啓  
蒙運動ニ私達ニ無念ニ努力致シマシテ結果今迄ノ院

又

本ノ変化ニ俾運動ハ新リ潜メテ起リマシタシキ傾キ  
動ニ只々ノ中ヲ混乱ニ爲サク、又々ト云フ事カ新ク表  
ノ喜イ事達ニモ若ン様ニトツテ来セシテ橋先生ノ志以テ  
精神ノ下ニ馳セ起シテ来ル様ニナリマシタ  
交カコウトツテ起リマスト、此ノ批辭ノ一ハ學校ノ教  
材ノ高而材ノ劣志等デアリマシタワレテ、此ノ結果  
高ハ教ノ劣ニ非ズシタ、ト云フ事カ爲メ、然レモ今  
シメトノ活モ中ノ一ヲ起リマスト、方々デアリ、表  
名、ト云々名ヲ書キテ、此ノ支那ノ作ヲウツス  
機モカ、是レヲ防ギ止メ様トスル方、情ヲ濟スル  
或ルおノ如キハ支那ノ表、内ニおノ機モカ、廻  
テ、表イテ、此ノ危殆カ、ト云フテ、好書  
シテ、廻リテ、表イテ、此ノ危殆カ、ト云フテ、好書  
モ、ア、リ、マ、ス、此ノ危殆カ、ト云フテ、好書

ス力盛トモ危険ヲモ何デモアリトモ是レガ在途ノ  
一ツアス尤モ大シモ此ノ事デス我々青年志士等  
奮然シル様ナモノアスナラ

要カ反対ノ會費ハ若ク増加スル一方テ下テハ強ニ  
ト八九分通り徹底シタリテ是ノ結果青年進ハ自然  
改組ノ聲心ヲ持ツ様ニナリタリト私ノ川田小學校  
ニ元教員高カク青年ハ改組ノ聲其ノヤセルトトノ通  
條加集マシタカ夫レハ民政黨カ負クナラテ来タカ  
ラテス

民政黨ハ代議士ニ三名取レルカテアツタノテス  
ソレテ終ヒニハ若ク駐在公使加村ノ幹部トシテ  
以下似奉)

ノ

シテ務當局ニ進スル。其結果ハ多分協議ニシテ  
ラウト思ヒセス、ソレテ後ハ巡查ガ是等青年ノ処  
ヲ毎日廻ル所ノニナリマシタノデ氣ノ小サキ者等一  
部ノ内ニハ一寸躊躇スル者モ有ル所ニナリマシ  
タガ一般ノ者ハ肯キマセンデシタノデ果テハ村長ガ  
辞職スルカラ等ト迄ホニ能クス所ニナリマシタ  
ル併日ノ利ノ勢ヲ憂御精神ハ擴ツテ作キマス  
殊ニ憂御ノ富産組合ニ対シテハ其ノ向テヲ張ツテ  
既成政策ノ平ニ因ツテ水戸富産組合ト云フモノ  
迄出素々シタガ其結果ハ當然有名無實ニ終リ  
タノデアリマス、又新選ガ最モ誇ルベキ橋先生十七  
八年苦心ノ「新選農協」ナルモノヲ議會ニ提出ス  
ベク縣會ニ出サレトシテ知事ハ既成政策ガ  
潰レノデアリマス、握リ潰シテ終ヒマシタ、新選ハ橋生

ヤ農民ヲ伴ヒテ新應ニ陳情ニ和撫ケセシムルカ取  
目デシテ、如斯新應ハ左迫サレテ多クマシテ、是等  
ガ五、一五事件ノ原因ヲ十ツテ在ルト思フノデアリ  
マス、ドウカ参政者ニ改修ヲシテヨリ、良キ改修ヲ  
ヲ以テ再ビ期ルコトノ採返サレトテ十ヶ條ノ希望  
シテ止マヌ処デアリス。

才 次ハ農村青年ノ指導意見ニ就テハ

ヒ 簡潔ニ申シ述ベマスガ私ハ凡テ「私心ヲ去シテ申  
シトゲタイノデアリス、彼ノ明沈雅新ノ大西御ガ  
之ハシテ極ニ「金ニ希望ニ地任ニイラヌ」ト云フ折ナ  
氣持ヲ指導セネバナラヌト信スルヲデス、私心ガ  
ナクシテ青年ノ同然ニ集リマス私ノ場合ニ又私ハ  
私心ヲ捨テタカラ青年達ガ集リテ来テ可クナ  
ルヲト思ヒマス。

是ヲ以テ裁判長ハ十分間ノ休憩ヲ宣シ午前十時  
十分一時退廷、午前十時三十分再開引續キ後藤  
園彦ノ訊問ニ入ル、

才 引續キ午前十時十分ニ懸クが昭和六年三月頃陸海  
軍ノ一部將校ト民間ノ一部が企ツク國家革新  
新運動ヲ謂フ三月事件ニハ關係ハナカッタカ

ト 關係アリマセン

才 ソレヲハ昭和六年八月廿六日青島ノ日本青年館  
ニ於ケル國家革新ニ關スル會合ニ出席シテ事ハ  
尙邊ヒナクネ

ト 尙邊ヒアリマセン

才 事情ハ曩ニ橘が述ベタ通りデ八月二十五日ニ上  
京ニテ本郷西片町ノ井上ノ宅ニ行ツク事モ尙  
邊ヒナクネ



ト 尙遺アリマセン

才 其時ノ法ノ模範ハ橋被先ニ述ベテ通リ知ネ

ト 左柳デ法産イマス

才 其時ノ出所者ノ氏名ヤ會合ノ所トテ述ベテ

事ニ橋加述ベテ通リ知ツタネ

ト 左柳デス

才 其時支那ヲ設クルト云フ詔ガアツタト被告ハ事

審デ申述マテ辰ルカドウダツタカ

ト トウデシタカ判リマセン

才 リレカラ權縁或仰宅ニ行ツタ事ニ相違ナイカ

ト 相違アリマセン

才 其時新宿ノ寶亭ニハ出席シテカツタカネ

ト 左柳デ法産イマス

才 取ツテカラ法産イマスニ誤ラタカ

ヒ 語升十カウタト思ヒマス

才 ヲレテハ青心ノ日本青年館ノ會合ノ事ハ此ノ位

ニシテオウガ次ハ昭和之年十月頃陸海軍將校

並辰岡ノ一部新謂十月事件ニハ關係アルネ

ヒ ソウデス

才 被若橋加述ベタ程被ダウタカネ

ヒ 左折テ海軍イマス

才 其計畫が失敗シタコトモ内イタネ

ヒ 左折テ海軍イマス

才 内容ハドシモノダウタカ

ヒ 橋カラ只失敗シタト云フ事又ヲ内キマシタノテド

ンチモノダウタカ知リマセン

才 失敗後ハ弁田述ベタ通り孔令松手段デ華新ノ運

動ヲヤルコトニナウタノダネ

ヒ ソウデス

才 昭和七年五月地五捕ノ古突、中村ノ二人が菱御堂

ヲ訪ネテ素テ一晚泊シタ事ガアルカ

ヒ 左折ノテ成能イマス

才 リシテ茶法會ヲ開イテ其時ノ話ノ内容ヲ橋ノ進

ハタ通りイカネ

ヒ 左折ノテ成能イマス

才 次ハ昭和七年二月カラ三月ニカケテ小沢正ガ井上準

之助ヲ其友五郎ガ團政磨ヲ暗殺シタ事所謂益

盟團子ノ件ニハ関係ナクイホ

ヒ 全然アリーマセン

才 袖先ハ誰カラ襲撃ナシニ参加シホメラレタカ

ヒ 橋カラ昭和七年三月下旬菱御堂ニ於テ話ガア

リマシタ

才 其時誰が飛タカ

ヒ 一人デス

才 被告ハ予審デハ林ト二人居タト云ツテ飛ルカネ

ヒ 和一人ダツタト思ヒマス、當時ハ二人ダツタカトモ思ヒ

マ、タガ矢張り一人デシタ

才 デハ其時ノ証ノ内容ハ

ヒ 襲撃計画デ只漠然トシタ証デ陸海軍ノ将校

達ガ襲撃スルカラ望デモ余ヲ捨テ、モヤル決心

ダカラ私モ参加スル概トノ話デ何程ハヤシタ

才 被告ハワレニ承諾ヲ與ヘタカ

ヒ 確實ニハ申しマセシタガ承諾スル考ヘデシタノデ

ヨク考ヘテ見極ト云ヒマシタ

才 其時堀川ノ話ガ和タデハオイカ

ヒ ハイ、今ノ内カラ連絡ヲ取ツテ置キタイトノ話デ

法廷イマラ

才 トウ云フ凡ニシテ

ヒ 井上目付ノ才ト連絡ヲ取ツテ参加ヲ求メタ才ガヨ

カラウトノ事一テラ

才 其ノ事ヲ堀川ノ才ニ伝ヘテ矣シトノ事知ツタカ

ヒ ハイ左折一テ法廷イマス

才 其事一ニハ承諾ヲ與ヘタカ

ヒ シウデス

才 何時何人タカ

ヒ 志シマシテハツキリ覽入テ飛リマセン

才 被告ハ予審部デハ昭和七年三月廿五日湊原院

小号後ニ堀川ヲ訪ネテ行ワシテ裁縫室デ合ツタ

ト云ウテ居ルホ

ヒ トウモヨクノ覽入テ飛リマセン

才 其時被告ハ内務ノ坂ノ處デ會ウタト云ツテナルカド  
ニナ事ヲ語シタカ

ヒ 橋先生ノ才デ襲撃ノ計畫ガアルカラト云フ事ヲ  
伝ヘマシタ

才 参加ヲ取メナカッタカ

ヒ 只計畫ヲ伝ヘタ也ケド決然イマス

才 被告ハ予審デコウイフ事ヲ述ベテ居ルネートテ審

ヒ 時ノ予審調書ヲ讀ミ内カセラルレバ

ヒ ソウ申シマシタ、承諾ハシナカッタ所デスガソウ申シ

マシタ、

才 其後堀川ハ来タカ

ヒ 来タト思ヒマス、確カ三月二十一日ダツタト思ヒマス

才 其時橋ハ堀川ニドシテ語ラシタ

ヒ 参加スルカ、シナイカラヲ尋ネタラ堀川ハ承諾シタト思

ヒマス、

才 堀川ノ同志ト云フノハ照況、川崎、憲次ノ三人ヲツ

タカ

ヒ 左様ノデモ解イマス

才 其時迄ニハ被告ハ参加ノ決心ガツイテ居タカ

ヒ 左様ノデモ解イマス

才 デハ塾デ変更電報ノ襲撃ノ計画ハ誰シガ提案シ

タ

ヒ リレハ十二日ニ古突中尉ガ来タ時其語ヲ出ラタ

ト思ヒマス、処ガ橋先生ハ自尔ノ後案サレタ概ニ

申シテ居ラレマスガ

才 其矣トウダ

ヒ ハツキリシナイノデス

才 被告ハ二十四日ノ晩ニ計画ヲ固イタ記憶ハナイカ

ヒ 法座イマセン

才 昭和七年四月姪ノ頃被告ハ橋ト山水園ニ古賀

中村両中尉ヲ尋ネテ事ヲ橋ガ云ツタ通りカネ

ヒ 左新ノテ法座イマス

才 証ノ内容ハトニテ証ヲシテ、革新計畫ニ就イテ

証ガアツタネ

ヒ 首相官邸、工業俱樂部

才 ソニテ証ガアツタガ議會ヲ襲撃スルトハ云ハナカツ

タカ

ヒ ソウデニテ、法座イマセン

才 其真ヲ予審デ述マテ事ハドウダ

ヒ ハウキリ記憶ニテ居リマセン

才 其時被告ハコウ云フ事ヲ述ベテ居ルカ

才 判長ハ予審調書ニ就キ議會ヲ襲撃計畫ノ具



体的白昼ヲ護ミ内カスレバ

議會ノ襲撃ト云フ事ハアリマシタガ飛行機云々ト

云フ事ハナイテ居リマセン。ソレハ予審ノ陳述ノ才

が尙遠ヒデアリマス

トウレテソシニ尙遠ツタ

ソノ時ハ殺人的ナ頭ニナツテ居リマシタノデ遂尙遠

ヒヤシタ

才成毅令加布カレル事マ兼仰エ師ヲ推戴シテ

参内スル事ヤ、井上日召一味へ同志五六名参加

才ノ運動費マ旅費ノ話等ガアツタ事ハ尙遠

ヒナイネ

ヒ尙遠ヒアリマセン

才変電新襲撃ノ話ハ

ヒナカツタ核ニ思ヒマス

才 其時迄ハ変電新装整ノコトハ被告ノ額ニハ十カ

ワタカ

ヒ 其時イマセシテシタ

才 昭和七年四月二日頃愛御塾長ノ部屋デ橋林

等ト参加塾生ノ選定ヲシタ事ガアルカ

ヒ 致シマシタ

才 其時林ハ死タカ

ヒ ハツキリ記憶シマセシ

才 其時ノ橋ノ話ノ由表ハ

ヒ 橋矢吹大貫ノ三人ヲ参加サセルトノ話デアリマシ

タ

才 其外ハ

ヒ 小室ニハ意見ヲ得テ見所トノ話デシタ

才 以レカラ

昭和七年四月二日頃愛御塾長ノ部屋ニ於テハ被告ノ額ニハ十カ

ヒ 横須賀、喜田、温水ノ三名ニ参加サセル話ガアリ

マシタ

才 被告ハ承諾シタカ

ヒ 致シマシタ

才 被告ハ矢吹、塙、大貫ニ参加ヲス、メタカ

ヒ ス、メハ致シマセン

才 小室ハ

ヒ 致ラマセン

才 温水ハ

ヒ 致ラマセン

才 横須賀ハ

ヒ ハツキリ判リマセン

才 温水ニハ誰ガ話シタ

ヒ 四月五、六日頃塾長ガ電話ヲカケテ話サシタ柄デシタ

才 妻由ハ

ヒ 判リマセン

才 被告ハ言事ハ抑々ニ勸ムル事ニナツテ尻夕橋ヲガ

ヒ 私カラ話シマシタ

才 予審デハ三人デ協議シタト云ツテ尻ルガ茲デハ橋

ヒ ガ一人デ決定シテ被告ニ話シタト云フノ事

上 ハイソレガ本筋デス

才 ヨレ、リレテハ宜ライ、次ニ被告ガ四月八日堀川ト

上 會ツタ時ノ話ハ

上 古突カラノ襲撃ノ内容ヲ傳ヘマシタラ替成レマ

上 シタ……以下低声ニシテ聴取不能

才 予審トハ少シ遠ク処ガアルガドウカネ、要スルニ

上 堀川ハ参加ヲ承諾シテ尻夕ネ

上 左新デは座イマス

才 尚小田理利右之内ノコトヲ話ガ出夕振ノダガ

ヒ 出マシタ

才 昭和元年四月十七日被告ハ土浦ノ山水周ニ行ツ

タネ

七 八ノ、竹キマシタ

才 古祭カラニ百糸ヲ受取ツテ来テソレハ橋ニ渡シタ

七 百糸ヲ渡シ……(以下教語不聴)……大川カラ出

タ金ダト思ヒマス

才 昭和七年四月三十一日被告ハ思振橋ト會ツタネ

トニナ事情デ會ツタ

ヒ ソレハ十三日デス

才 アコ四月ノ十三日ガ本ノ審判

ヒ ソレデス、古祭ガ話シタ内容ノ飛行機ヲ使ツテ

才 襲撃スル事ヲ話シマシタラ承諾致シマシタ  
飛行機ノ話ハソレデハ本當ニアツタノダネ

ヒ アリマシタ

才 昭和七年四月十六日古賀中尉が菱御座ニ尋  
ネテ来タ時ハ誰が會ツタ

ヒ 橋ト私ト林が會ヒマシタ

才 其時ノ話ノ内容ハ——被告ハ予審テハ大分詳シ  
ク述ベテ居ル所ダガホ——大分具体的ニ進ニテ  
来タ所ノダツタネ

才 トテ裁判長ハ予審調書ニ依リ議會襲撃計  
画ノ内容ノ具体的事實ヲ讀ミカセ

才 唯違ツテル処ハ橋が述ベタノトハ飛行機  
が何カ違フネ

ヒ 其時ハ誤信トテ居リマシタ

才 以ヒテハ橋ノ起ベク通リガホ

上 左新ノテ候ノ理イマス

才 其後ノ時ニハ林ガ死ク事ハ間邊ヒトイカ

(以下次第)

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

じ 話が終つてからまたデハナイト思ヒマス

じ 話ノ席ニハ丹ナカツタト思フト云フタガネ!

じ ソウジス

じ デハ林ニハ被告が話シタガ!

じ 話シマセン

じ ソレデハ桶ガシタガ...

じ 誰ガシタガ判リマセン

じ 古賀ハ代ノ脱逃生ニ合ツタガ!

じ ハイ會シマシタガ女シタ話ハ致シマセンデシタ

じ 昭和七年四月十七日被告ハ東京ノ家ノ探シニ付シタガ...

じ 違ヒナイガネ!

じ 下違ヒアリマセン

じ 四月十九日ニ家ヲ探シタガ...

じ 下違ヒアリマセン



オ 此、晴林が居タマハ智達ヒ十イタ。

ヒ 了達ヒアリマセシ

オ 被告ハ昔ノヨ、痛リニ山水濁キ中村ヲ防ネタト、計ハ少イ

タタ。

ヒ 少キマセシデシタ。

オ 此、晴林が参加スルヲハ少イタ。

ヒ 少キマセシデシタ。

オ 計ハ何捕ヲラソラ思ツタ。

ヒ 家ヲ深シ夕捕ヲラソラ思ヒマシタ。

オ 変電所見澤ニハ何用ボツタ。

ヒ 私小童等四人デシタ。

オ 見澤ノ模様ハドウタツタ。

此、晴林少弁護人起ツテオ判長ニ対シ前記甚延向、状況ヲ七項

記載、如キ被告ニ大声ニテ陳述方ノ希望アリオ判所ハ並チニ

被告の注意して訊問の誤り

古賀の死の機、状次第簡潔にして、金ヲ奪取ルルヲ以テ渡シ

マシタシテキヤラメルヲ五ツ買ツテ東ヲ私達ニ呉シマシ

夕全ク子供ノ様子無知ナルガアツテ面白イ事デス

被告ハ滞シラ東ヲ氏ノ金ヲ橋ニ渡シタマフ

ハイ渡シタシタ

昭和七年四月二十七日山内閣ニ古賀中村両名ヲ訪問シタリ

ヤ内容ハ橋ノ迷下夕通りガネ

シラゲス事違ヒアリマセン

テハ此ノ時、証人襲撃計畫、具体的内容ガハツリキリツク

証ダネ

左様デ御座イマス

此ノ時、自標ハ首相官邸内大臣官邸警視庁日本銀行三三三

ヤデ愛郷社ガハ美電所襲撃ト決ツタマフ

ト  
ソウゲス

襲撃ノ日晴ハ五月十日日ヲ十日ト決メタネ

ト  
ソウゲス

武器ハ...

手榴弾

ト  
ソウゲス

拳銃

ト  
ソウゲス

ズレタケダス

ト  
ソウゲス

ドコナ方法ヲ被撃スルニ決メタガネ

ト  
ソウゲス

手榴弾ヲ以テ投デツルニ拳銃

ト  
ソウゲス

私ハ威嚇スル為メニ使ノ心算ダアリマシ

ト  
ソウゲス

ソレデ入ヲ殺ス心算ダハ無クツタ

と 私ハ只威嚇スル丈ヲ、考ヘテアリマシク

手榴彈ハ?

投ゲツケル

投ゲツケル

破裂シマス

ソウスレバ?

在俄シマスガ人命ヲ損スル莫近ハ考ヘテ居リマセシテ

唯漠然トシテ推測ハアリマシク

デハドらシテ首相官邸ヲ目標トシテ

又レハ政党内閣ヤ特権階級ノ代表ダカラデス

デハ内大臣官邸

ホニヨリ判リマセシテ

政友會本部

政友會本部

レ

警視庁

治安維持の方法が誤つて居るがラデス

三菱銀行

財源の代表がラデス

テハ首相官邸襲撃のシロ者が手榴弾や拳銃を持ち出して居る

モ人ヲ殺ス考へハ持ツテ居ナクツト云フノヲネ

左様デ押さいます

被告ハ誰ガ計畫ニシテ思フ

古賀がヤツト思ヒマス古賀がソウ云ツテ居リマシタ

其ノ結果ハドウナルト思ヒマシタ

民意ヲ代表ニシテ内閣が出来ルコトヲ思ヒマシタ

軍政府ナシヲ考へナクツタ

考へルニハ考へタガ民衆ノ總意ニ因リ内閣が出来ルト思フ

テ居リマシタ

オ デハ被告ハ軍政ト云フ意味ハ

ヒ 深クハ判リマセシガ軍人達が内閣ヲ作ルダロウト思ヒマス

オ デハ被告ハドウシテ西田ヲ暗殺セネバナシト思ツタ

ヒ 計畫ヲ妨害スルン秘密ヲ漏ラサレル様ダラドウシテモヤ

ラネバナシヌト云フニナツタト思ヒマス

オ 被告ハ今首相官邸ヲ襲撃シテ際邪魔スル者ヲ威嚇スルト云

ツタモドウスル考ヘダツタ

手榴彈一ツ投ゲツケテモ内閣ガ倒レル訳ノモノデモ無カラ

ウシ又監視テニシテモソウダヤナイカ假リニ倒レタトシテ

モ建物ナシカ又直グニ幾ラデモ止まるヤナイカ

ヒ 兎角一般國民ガ動搖スルダロウト思ヒマシタ

オ 桶が速ダダ様ニピストルヤ手榴彈デ以テ寧路ノ大官ヲ暗殺

スルダト云フ話ガアツタノデハナイカ

ヒ ソレナラハケルキマセシデニダ桶ハ犠牲者ハ少クスル考ラ

ツリマシタニ殺害ノ意志ハマリマシタ  
デハ是レテ審ヒ滞ツル

リテ女判長ハ被告ヲ其ノ席ニ着セシメ

デハ是レデ一辨休憩致シマス午五時一辨ヲ始メマシトテ午前

十一時入分休憩ヲ遣シ午五時五分前ニ引續キ最後

ノ証内ヲ讀ムル陳述ニ先<sup>ハ</sup>被告ハ女判長ニ対シ咽喉ヲ痛ク弄リ

发声スルナラサル旨訴フル知マリ

オデハ引續キ証ナルガ一矢張リ昭和七年四月廿一日ニ於テ

今夜被告橋本<sup>ハ</sup>三島ガ會員柳橋清ニ対シテ証ハ橋本<sup>ハ</sup>述ビテ

通りガ

ト左様デ申座クマス

オオ尚木参加<sup>ハ</sup>ニ対シテ答ヲ詳シク語シマスモ旨違ヒナイ

ト左様デ御座イマス

オ其ノ時西田ノ事ハ

ト 話とテアリマセシゲニソ

ト 変電所襲撃...

ト 文様デ神意イマス

ト 昭和七年四月三日変電所襲撃... 同業者見出... 左様

ト 陸軍外、者モ同伴... 桶が速... 通り... 速...

ト 左様デアリマス

ト 被告ハ堀川秀雄ニ西田税猪殺... 付... ハ何時ダツタ

ト カ一予審ダハ... 三日トナツテ... 居ルガネ!

ト ソレデス

ト 其ノ時ノ話ノ内容ハ...

ト 其ノ内、内容ヲ話シ古賀ガシタイタ話シラヒテ川崎... ヤツラ

ト 貫ヒ度イト云フ... 話シテ吳レト申シマシヨ

ト 其ノ時ノ堀川ノ返答ハ...

ト 川崎ト御話シテ見様トノ話シデアリマシム



キ 其、際近ク満洲ニ移クモ話ニシテ

キ 左様デ申座イマス

キ 恒田我暗殺ノ件デ其ノ後堀川ト合ツタカ、

キ 廿四日ニ東ヲト思ヒマス。

キ 其ノ時誰シカ合ツタカ、

キ 先至ト私ト二人デス

キ 林ハ、

キ 合ヒマセシデシテ

キ 桶カシノ話ニ対シテ堀川ハナニトシツタカ、

キ 小田野利右衛門ニヤラセタラドウカト、アデアリマシタカ、

キ 昭和七年四月廿五日桶ト山水園ニ古賀中村両名ヲ訪ネシ

キ 事ハ桶ガ述バツ通リデネ、

キ 左様デ申座イマス。

キ デハ被告ガ満洲ニ移ク話ハ何處ニタカ、

廿一日去夕ト思ヒマス

渡満ノ目的ハ?

件ヲ起スニ就イテモラマセル迄ニ滿洲ニヨツテカラ

持守社が親達ニ通知ラズルヲ一ツト今一ツハ田康信氏

ニ塾生ガヤツテ来ルヲモ判ラヌガト云ノヲラ後メ云ツテ

居タラガツリマシク

被害ハ渡満後ピストル入手ノ考ハ無カッタカ?

アリマセンデシク

被害ハ矛盾述ハシラズラムデヤナイカ?

又ハ謾リデシクガ自然ソクホテ終ツテモノデ買入るハ自

的デハアリマセンデシク

其ノ後話ハトクナツタカ?

私が一應トクナツタリマシク其ノ準備、為メニ四月廿一日

上東ニマシク、然レ其ノ為メニ金ヲ措ヘル為メニ廿五日頃

家ニ由キマシテ余信考ニ百兩ノ金策ヲ頼ンデ廿八日上海ニ  
ル迄ニ向ニ合ハセル様頼ンデ帰リマシタラ建ハダハ橋ノ縣  
ノ其代ハ挨拶ニ廻ツテ来マシタソレテ茶話會ヲ開ク  
タメニ信考が来ラ木ヤノ向ノ由ツタガ百兩ハ無ツタガ未幾  
迄ニハ向ニ合ノダラカニト云ツテ帰リマシタ其ノ際古賀  
カラ電話ガアリマシテ橋ハ七時何カデ上京致シマシタ  
私ハ金ガ出来ナラツタノデ三十日ニ上京シテ林ノ宅ニ  
由キマシタ

乙 女

廿八日ノ晚橋林ト被害ノ人ノ信ノ話ノ内容ハ  
三人ノ信ノ話ハ雜司答ノ家ノ話シデシタガ場所ガ悪イカ外  
林ノ宅ニシヨウトノ話シガアリマシタ其ノ晚ハ林宅ニ泊リ  
マシタ

乙 子

被害ノ昭和七年四月ニ七日雜司ノ答ノ家ガ理岩勇ニ會シタ  
ハイ其ノ時ガ初メテダ橋ハ建設社ノ方ハ出掛ケテ由ツタ及

ニ 原告が来たか押入のガラス、以下低声、こゝろ聴キ取入  
其、晩桶の自動車で帰郷したるや話、原告の桶が迷った  
通りダツタカ?

被告の昭和七年四月二十日上野駅へ古賀中村両名を連  
= ヲツテ村宅へ連上り来たカ  
ソウデス

其、情、話ハ、  
金ヨ百兩程を渡したと云ふカ、小林の三郎宛に名刺、招  
介状を手紙、頼ミマと云ふカ、私ハ被告ハ、小切手、七十  
兩と取り、ヨキマと云ふ。

被告ハ其ノ日ニ高瀬梅吉、赤澤誠ヲモ招介状ヲ貰ヒツタカ、  
其、晩、其、  
金ハ、

信書ヲ百十番貰ヒタリソレヲ直取ク頼ムト云ヒ

昭和七年五月七日、北野が鳩矢吹大貫小室、四名が橋ト

上京シテ予ニ召遣ヒタリヤ、

召遣ヒタリマセン

橋が速ク通リダロクネ、

報告ハ一月一、夜渡満、迄出發シタネ、

ハイ左様デ御座イマス

奉天ニ何時着イタリ、

五月四日ニ着キマシタ

トニナ事ヲシタ  
仰里ノオマ親元へ電報ヲ一通宛打テマシテ、小林

少將ヲ討問らるるヲ在念中一テシタノデ紹介状ヲ  
出らるるヲ、私ハ、し若憲兵中佐ハ新永ニ飛ラレル  
カヲウト思ツテ飛リマシタラ小林少將ハ否存天ニ  
飛ル若クト云ツテ問合ヤテ下サツタラ一好肉位ニテハ  
若中佐ハヤリテ来ラシマシタ、尚其若私ハ別電デ  
古賀等カラノ手紙ヲ渡らるるニタラ小林氏ハ「古賀等  
ノ意志ハ自介トシテハ全ク血ノ傍ハ思ヒカスルガトウ  
スル事」モ出来又カラ取ツタラ輕等盲勃ヒヌ板ノ  
ニ云ツテ莫レトノ事一テシタ、其中ノ若中佐カ来  
ラレテ詳細は活らるイカラ於朝九時頃迄ニ来ルト  
云ツテ別レシタ其後小林特等ハ宅ニ成馳走シテ  
莫レマシテ私カ若中佐ノ話等シタラ此等ニ裏  
ヘテ飛ラレタ板デアリマシタ、ソレカラ私ハ大丸紙籠ニ  
自初等テ取ツテ茨城ノオニ出ス書面ヲ書イテ休

ミマシタ、翌朝九時頃、石中隊がヤツテ来テ、色々ト満洲ノ状態ヲカマラシテ別シマシタ  
旅館ノ直ガ横ニ自他指導部カアリマシ、其入  
口デは田原信氏ト会ヒマシタガ氏ハ所ノカ急用  
ガアルトカデ直ガ別シテ旅館ニ降りマシタ  
ソレカラ之時間程自動車を弄テ市内ヲ見物シ  
テカラ取返ノ途ニ就キマシタ  
被害ハ被害ハ既述ノ友人ノ許ニ至矣、以テ  
ネ、

(以下次義)

ヒ 左様デ御座イマス 以下教言不明

オ 帰着シタノハ五月七日ダネ

ヒ リウデス

オ 腰子ニ糸血ヘタノハ

ヒ 湯水 林小室デシタソシテ一締ニ三越本店ニ行干

ニシタ

オ 三越デハドン丁話ヲシタカ

ヒ 滿洲デノ話ヲ致シマシタ

オ 林カラハ

ヒ 黒岩カラ手榴彈ヲ取ツタトノコトデシタ

オ 変電所襲撃ノコトハ

ヒ 後割カ決ツタトノコトデシタ

オ 被告ハ其ノ晩山水園ニ行ツテ古賀具甲村黒岩

ノニ名ニ會ツタネ

4 / 1



ヒ ソウデス

オ 其ノ時ノ話ハ

ヒ 滿洲デノ話ヲシマシタカ古賀ハ小林氏ノ話ナカ

受入シテ梯ト見デシタ

オ 其シカテ龍衣撃テ時ノ折合セラシタネ

ヒ ソウデス

オ 時向ハ

ヒ 午後七時十五分頃デシタ

オ 被告ハ其ノ晩ハ泊ツタネ

ヒ ソウデス

オ 昭和七年五月十日ハ上京シタネ！ 馬場ト同道デ

ヒ ソウダツタト思ヒマス

オ 其シカラ青年館デノ會合ノ模様ヤ出席者

等ハ橋ノ述バ夕通リダネ

ヒ  
ソウデス

オ  
其ノ時被告ハ川崎ガ西田様ヲ暗殺スルコトヲ初メテ

聞イタカ

ヒ  
ソウデスドニナ理由カハ知リマセンガ決定シタコトヲ

肯カセラレマシタ

オ  
尚會後橋ハ小水園ニ帰リタネ

ヒ  
ソウデス

オ  
当時ノ被告ノ宿所ハ何処ニ決メタリ、ハ千代館ニ決

メタカネ

ヒ  
左様デ御座リマス

オ  
五月十一日橋ガ青年館ニ来タ會合ノ模様出テ著

内喜等ハ橋ガ述バ夕通リダロウネ

ヒ  
左様デ御座イマス

オ 被告ハ予等田デハ會合ノ際堀川遠ハ除クモトニ  
仕様ト話シタ様ニ云ツテ居ルカネ

ヒ ソウデス 全然除クモトニシタノデス

オ 西田程暗殺モ計画ノ一部分ダツト云フモトハ云ツテ  
居タカ

ヒ ソウデス

オ 此ノ際高根澤ガ参加スル話モアツタネ

ヒ ソウデス

オ 堀川等ニ参加セナクテモヨクト云フモトハ誰シガ通知シ  
タカ

ヒ 林ガ通知シタ

オ 被告ノ昭和七年五月十日ノ行動ハ

ヒ 私ハ其ノ時迄ニ人既ニ準備ガ出来上ツテ居タト思フ

テ居リシコトヲ而シテ生々等ノ渡満ニ就クテ送別会ガア

ルガエ合が栗イト思ヒマシタノデ断ルコトニ相談私  
シマシタソシテ金が足マノデ土補ニ行ッテ古加賀ヲ尋  
ネマシタガ古加賀モ無カッタノデ其ノ終帰ッテ来マシタ  
祇告等ハ下谷区西馬場町ノ蕎麦屋岸車馬込ヤ  
方デ會合シタコトカアルネ

ヒ ソウニス私ニ過水、横須賀、其他都合九名デシタ

オ トシテ相談マシタ

ヒ 変電所ノ襲撃事馬ノコト決行後ノ行先等ニ就  
クテ相談シマシタガ私ハ自由行動ヲ取ルコトニナ  
ッテ行リマシタ

オ 十四日ノ晚八十分鐘デ千代田ヲ渡スニ就クテ二人先  
来ル目ニウケカテ過水ニ矢吹場ニ大貫、横須賀、二  
人全ノ二人一組先ニナッテ来テニ組合先ヲ持ッテ行ク  
ルニシテ尚聯絡係ハ過水カアルコトニナリ人向直ニ無ク

ルニシテ尚聯絡係ハ過水カアルコトニナリ人向直ニ無ク